

たまいたま 川柳



ダリア

令和4年 (2022年)
9月号 (No.754)

日川協加盟

巻頭言

初心者講座とごんじゆ

先般、県の年度文化事業として「文学創作講座」(川柳)があり、講師を担当した。前年、依頼があった頃はコロナ禍第六波の真っ直中だった。題して「巣籠もりの遊び心(初心者向け講座)」とした。

募集三十名に応募が三倍ほどもあり、抽選による受講者の平均年齢は約七十歳だった。講座は全四回で各回二時間程度とのこと。「川柳のセの字」から始めたのでは、時間は足りない。リモート教育が喧伝されている世の中だが、対面にこそ意義がある。

梟のような巣籠もりを余儀なくされている受講者である。個々の川柳観をくすぐり出しながら、七五調のリズム感を体得する場を意識を用いた。そしてその間に、川柳の色々な約束事を理解して貰った。

受講者の目が輝くのは提出句個々への添削だった。紙面一杯に朱書きした添削には、歓声の音が揚がる。梟の眼が鷹の眼になるのだ。

最後には記念写真も撮って、満面笑みの解散となった。五年に一度ほどの従前の川柳講座とは、毛色が変わっていたかも知れない。勉強会の起ち上げは断った。皆さんの各様な巣立ちを期待しながら。

願法 みつる

日日是好

凡々の人生だから荒い海

賤の屋のブラックホール二三方所

フルートの流し目に会う小宇宙

三省の視野に遺影を忘れがち

笑うなら声を上げたい夢の中

ロシアと聞いて想うシベリア

莫迦はやめると塀の外から

長々生きる今宵いちにち

ホモサピエンス四人棲む家

真似る親の背因果応報